

開会 平成27年6月1日  
閉会 平成27年6月1日

# 足利市総合教育会議

足利市教育委員会

## 平成27年度第1回足利市総合教育会議会議録

1 開催日時 平成27年6月1日(月)  
開会 午前9時 閉会 午前10時

2 開催の場所 足利市役所4階 特別会議室

3 出席者

市長	和泉 聡
教育長	若井 祐平
教育委員	笠原 健一
教育委員	櫻井 淳子
教育委員	清水 尚則
教育委員	市橋 雅子

4 会議出席した事務局職員

総務部長  
政策推進部長  
教育次長  
経営管理課長  
企画政策課長  
教育総務課長  
教育総務課庶務担当総括主幹  
教育総務課庶務担当副主幹  
教育総務課庶務担当指導主事

5 傍聴者 1名

6 会議日程

日程第1 議題(1)  
足利市総合教育会議の設置について

日程第2 議題(2)  
教育に関する「大綱」の策定の考え方について

## 7 議事の経過

### ○ 開会

#### ○ 市長あいさつ（要旨）

本法律改正の趣旨は、地方自治体における教育現場と、それを執行する予算執行者である市当局との間の意思疎通を図りながら、教育委員会と市長部局が連携を強化すると、解釈している。

これまでどおり、教育の中立性を保ち、教育委員会の主たる会務を尊重しながら、予算執行者として、支援をさせていただく。

この会議において、協議すべき課題は、大きく分けると二つになるかと思う。

一つは、教育現場での教育上の政策や対応。これについては、これまでどおり、教育委員会を中心に、政策を計画、立案して、実施、検証するというような、大きな流れになっていくのだろうと思う。

また、もう一つは、教育現場を支援する施設整備や、予算配置。これについては、教育委員会の意向を受けながら、我々市執行部が応援をしていくというような流れになっていくのだろうと思う。

緊急事態や災害への対応などについても、この総合教育会議の仕組みを利用しながら、対応していくことになっていくと思う。

これまで以上に、双方が連携して、子供たちのみならず、全ての市民の方々が、将来にわたって、学び続けられるような、よりよい教育行政の推進に関わっていききたい。

#### ○ 教育長あいさつ（要旨）

今後は、民意の代表である市長と教育委員会のつながりが、より直接的に、あるいは、より強いものになって、市民の方々の教育に反映した施策が行えるようになると考えている。

昨今の教育を取り巻く環境が、大変めまぐるしく変化しているが、そういった中で、しっかりとした確かな見通しや指針を持って、教育行政を推進していかななくてはならないと考えている。

足利市にふさわしい、教育の尊重、機運を醸成しながら、社会情勢の変革に対応した、柔軟で、かつ適切な、そういった教育行政を推進していきたいと考えている。

## 日程第1 議題（1） 足利市総合教育会議の設置について

事務局（教育総務課長）が、資料1「足利市総合教育会議の設置について」説明を行った。

### 委員

総合教育会議の年間の開催回数は、決まっているのか。

### 事務局

各自治体によって、定例的なものを定めているところもあるが、定めなくて、必要に応じその都度、市長が、会議を招集する形が多いのが現実。

### 委員

回数を決めて開催した方がいいと思う。

### 市長

形骸化しないように、いろいろなご意見を聞きながら、工夫していく必要があると思う。

### 委員

年2回とか、定例会を決めた方が、充実すると思う。

### 市長

今の議論を踏まえて、検討させていただきたい。

### 委員

開催の回数は、定期的ということもあると考えるが、必要に迫られてやるということを重視して開催するという考え方もあると思う。定例的にやるか、柔軟に開催日は決めつけずにやるかを含めて検討いただきたい。

### 委員

市長部局と、教育委員会に調整の必要なずれが生じた時には、必ずこの会議が行われないと意味がないと思う。

### 市長

形骸化しないように、今のご意見を踏まえて、検討していきたいと思う。

## 日程第2 議題(2) 教育に関する「大綱」の策定の考え方について

事務局(教育総務課長と企画政策課長)が資料2「大綱の策定の考え方について」説明を行った。

### 市長

現在、第7次の足利市総合計画の策定を進めている。この計画において、教育に関わるあらゆる分野について、基本方針や目標を示していくということになっている。この足利市総合計画をもって、大綱に代えたい。

教育委員さんの意見がある場合、どういうふうに「大綱」に反映するか。

### 事務局

現在、「教育・文化」を担当する第1部会は、教育委員会が事務局になっている。教育委員会の中で、いろいろな意見を吸い上げて報告するような形になる。

### 委員

総合計画の内容はしっかりしているのでいいが、計画として、6年と考えていることは、市長の意見を反映するには、スパンが長すぎる。計画を踏まえた上で、できれば別建てで「大綱」を策定する方がいいと考える。

### 事務局

社会情勢の変化などにより、その時期の流れの中で、変更していくことは可能である。

### 委員

足利市の第7次総合計画の中の教育部分について、ここで言っているものに充てるというのは、賛成である。別のものにすることは、おかしいと思う。教育に関しては、教育委員会として、よく中身を検討させていただく。

### 委員

基本計画の、教育・文化、健康・福祉、これが大綱になるということで考えれば、いいと思う。

健康・福祉分野の「人口の減少と超高齢化社会」という表現は非常にいい。教育行政で、少子高齢化という表現は辞めていただきたい。高齢化は幸せなことである。

もう一つ、文中の「市民一人ひとり」という表現も良い。一人ひとりの観点

から、また、目線からといった視点は、一般行政も教育行政も、必要なことである。

### **事務局**

策定中の総合計画の該当部分を一度集めた上で、このようなかたちの大綱になるというものを、秋の段階になれば、皆さまの方にお示しできる。それを見ていただいた上で、議論を願いたい。

### **市長**

総合計画とかけ離れたらおかしいが、6年は長いとの考えもある。総合計画で決まったものを、まったく同じに取り出して大綱におくなど、考え方はいくつかあると思う。ただ、ずれてはおかしいので、ずれを生じさせない、かつ、時間的な長さとか、状況によって、その時の時代の情勢を反映できるようにするには、どうしたらいいかとのご意見が出たので、検討させていただきたい。